

和歌山県田辺市の戦跡

～「やましき沈黙」がもたらすもの～

「NHKスペシャル 特攻“やましき沈黙”」(2009 年放送) から

紀南ブロック担当司祭 石井望

紀伊田辺教会では地元の市民グループが主催する「ピースフェスタ」に教会として参加してきました。2012 年に赴任した石井望神父は、戦争体験者の証言が掲載された地元紙を読んだのがきっかけで関心をもった、紀伊田辺付近の戦跡を調べて地図に起こし、資料を作成、展示しました。その一部をご紹介します。

アジア太平洋戦争末期、昭和 19 年(1944)10 月に始まった「特攻」作戦。人間が兵器と一体化して敵に体当たりする生還の可能性のない攻撃作戦のことです。この作戦で戦死した将兵は 5000 人以上、そのほとんどが 20 代でした。かつて「特攻」は将兵たちの熱意から志願して生まれたと伝えられてきましたが、実はそれより 1 年以上前から軍の内部で組織的に計画されていた事実が、「海軍反省会」の記録から判明しました。多くの将校が間違いと知りながらこの作戦を黙認した責任も明らかになりました。ある将校はこれを「やましき沈黙」と呼びました。このことを伝える NHK 番組のキャスターは、これは過去の話ではなく、組織が過ちを犯そうとしていると知りながら、有力者に付度したり自己保身のために黙認しがちな今の私たちを戒めるものだ、という趣旨の言葉で締めくくりました。

私は 2012 年に和歌山県南部の紀伊田辺教会に転任し、毎年 8 月に地元の市民グループが主催する「ピースフェスタ」に教会として参加するようになりました。また、高齢化していく戦争体験者、証人の言葉を地元紙が連続掲載するのを読んだことがきっかけで、田辺近辺の戦跡に関心を持ち、調べ始めました。市の歴史民俗資料館では戦跡に関してはほんのわずかな展示しかなく、特に「特攻」に関する「田辺海兵団」や「震洋基地」「桜花基地」計画などは、関心のある人以外はほとんど知らないようです。「負の歴史」は隠されて忘れさせられるのだろうかと思うほどでした。「負の歴史」をどう受け止めるかは、過去の出来事に関する問題ではなく、今の私たちの問題、生きる姿勢の鑑のようなものだと感じます。そして「過去を振り返ることは将来に対する責任を担うことです(教皇ヨハネ・パウロ 2 世、広島『平和アピール』1981 年)」と。下の戦跡地図は、現地に案内表示や説明板のないものがほとんどです。

アジア太平洋戦争末期に本土決戦、特に大阪・神戸への米軍艦船を迎撃するために串本、周参見、田辺、由良(白崎の回天基地)、紀淡海峡など、紀伊水道の要所に新たな軍事施設が計画された。

田辺にはそのような時期の「特攻」に関連する施設建設が多く計画された。

● **田辺海兵団**：1945 年 2 月 1 日に大阪海兵団(海軍初年兵の養成所)の分団として開団した。日本 14 団中で最後に設置された海軍特別志願兵に応募する日本人の不足を補うために、朝鮮半島・台湾出身者 16 歳以上に募集枠を拡大した。入団者 3000 人のうち、台湾出身者 100 人、朝鮮半島出身者が 800 人を占めた。同年 5 月 1 日には田辺海兵団に昇格独立、同 25 日には本土決戦に備えて防衛基地の役割を担う田辺警備隊となり、さらに 6 月 1 日には第六特攻戦隊が編成された。B29 の来襲爆撃が相次ぐため、初年兵養成教育機関としてはほとんど機能しなくなったという。7 月 28 日には海兵団兵舎の十数棟が消失、約 30 人が死亡した(海兵団跡は終戦後に南方から関西方面に帰還するための引揚港となり、引揚援護局として使用され 22 万人が利用した)。

● **公共施設等の接收と軍の駐屯**：軍事特別措置法の施行により、各国民学校、寺院などが接收され、特攻基地建設や迎撃のために海兵団の兵士や陸海軍の部隊が 50 人から数百人ずつ駐屯するようになった。人口数万人の田辺近辺に配備されたのは、田辺海兵団、警備隊、特攻隊傘下の兵士だけで 20,000 人に上った。

✖ **特攻基地計画①**：田辺湾を望む小高い丘には、敵艦に向けて「桜花」(人間爆弾)を発射するカタパルト基地約 10 か所が計画された。大坊、稻成、万呂、三栖(衣笠山)、上秋津、下秋津、朝来(西山)、生馬、岩田、岡など、小学校の沿革史に基地建設工事のための軍隊の駐屯が記録されている。

イエスになろう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

✖ **特攻基地計画②**：爆弾を船首に装備したヘニヤ板製のボートに兵士 2 人が乗り込んで艦船に体当たりする「震洋」嵐基地。フィリピンや沖縄戦では 2000 人以上が戦死した。現在は「鳥の巣平和公園」として整備され「震洋」のレプリカが展示されている。

☆震洋鳥の巣平和公園
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3821

いずれの特攻基地建設も未完成のまま終戦を迎えたので「幸い」実戦に使われなかった。

✖ 南太平洋の米軍基地から日本本土の上空に戦闘機・爆撃機がアクセスするために紀伊半島上空のルートが多く使われた。和歌山県南部には阪神間や和歌山市などへの爆撃を終えて南洋基地へ帰還時に機体を軽くするために爆弾が投下(投棄)された。「臨機目標」となったのは、軍隊関係や輸送設備だけではなく一般施設やカツオ漁船などが含まれる。

《参考資料》
『紀伊民報』2014 年 8 月 16 日記事ほか
『田辺市史』、『上富田町史』、『白浜町史』
中村隆一郎著『続・和歌山県の空襲聞き書き拾遺』東方出版 2000 年
伊勢田 進著『田辺の海兵団小史』・『田辺海兵団
神子浜一体験・追憶記』
古久保健著『轟音—B29 墜落の記』2006 年、『轟
音—その後』2016 年
中央評論『日本全国 B29 慰霊碑物語』2017 年、
『続編』2018 年

*問い合わせ：石井望神父(紀伊田辺教会)
E-mail：isnozomi@gmail.com

紀南の戦跡

< 田辺海兵団 / 特攻基地建設 / 海岸防備隊駐屯地 / 爆撃・戦災 >

